

**高校生のスマートフォン・アプリ利用と
ネット依存傾向に関する調査
＜速報＞**

**平成26年5月
総務省情報通信政策研究所**

調査実施概要

本調査の目的

近年、スマートフォンが急速に普及し、ネットワークを介した動画やゲーム、ソーシャルメディアといった多様なサービスへのアクセスが飛躍的に容易になっている。この結果、特に、高校生においては、メッセージ・アプリを含むソーシャルメディアの利用が急速に進むなど、従来のメールや通話とは全く異なる新しいコミュニケーションの形態が拡大している。

このような中、ネットへの依存傾向についても、パソコンでのネット利用が中心だった時代のオンラインゲーム等への依存とは異なる、時間や場所を選ばないスマートフォンを用いたソーシャルメディア依存といった、新たな形態の依存傾向が増加しているのではないかと懸念されている。

このため、総務省情報通信政策研究所では、東京大学情報学環 橋元良明教授ほか※と共同で、我が国の高校生の中で最もネット利用が進んでいると考えられる、東京都内の高校生に対する大規模な調査研究を実施した。本調査研究では、スマートフォン・アプリの利用実態、家庭や友人関係などの利用を取り巻く環境、及びこれらとネット依存傾向の関係を分析することにより、依存傾向に陥りやすい環境等を明らかにすることを目的としている。

※ 大野志郎氏(学習院大学計算機センター助教)、天野美穂子氏(東京大学大学院学際情報学府博士課程 橋元研究室在籍)、堀川裕介氏(東京大学大学院学際情報学府博士課程 橋元研究室在籍)

※ 本速報結果については、平成26年7月18日の報告書公表に伴い、一部データの差替を行っている。

調査実施概要

調査対象 / 調査手法

東京都教育庁の協力を得て、都立高等学校を対象とした調査を実施。

- 調査協力校 : 都立の全日制及び定時制の高等学校 154校
- 調査手法 : 無記名自記式質問紙調査。
(株)山手情報処理センターにおいて、都立高等学校へ一括して調査票を郵送し、回収は学校が一括して返送。
- 調査対象 : 各高等学校において、各学年1クラスずつ抽出(一部調査実施できなかった学年有)
- 有効回答数 : 合計 15,191票

	1年生	2年生	3年生	合計
回収数	5,413	5,164	4,614	15,191

調査期間

- 調査期間
平成26年1月7日～1月31日

今後の予定

- 今後、調査結果全体について、6月中を目途に公表予定。

インターネット依存傾向について

◆ インターネット依存尺度を用いた判定

- 「ネット依存傾向」については、心理学者キンバリー・ヤング博士の提唱した20項目のインターネット依存尺度を参考に調整したものを用い、ヤング博士の手法に従い、点数に応じて「高」「中」「低」の判定をしている。

◆ 手法の課題

ヤング博士の尺度は、世界的に最も幅広く用いられており、学術的な研究例も多い。しかしながら、スマートフォン等によるネットへの常時接続、ソーシャルメディアによるコミュニケーションの一般化等の昨今の環境変化を必ずしも踏まえていない。この結果、尺度の時代適合性に課題が生じ、**現在の基準で依存傾向「高」に分類された者は、ネットの活用度が高いとは言えるものの、必ずしもいわゆる「ネット依存」として医学的な治療が必要な者とは限らないと考えられる。**

- 例えば、「気がつくと思っていたより長い時間ネットをしていることがある」「他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディアやメールをチェックすることがある」等、半数以上が「いつもある」「ときどきある」と回答した項目は単なる一般的な利用形態を示すものであり、「依存傾向」の尺度としては疑問があると考えられる。
- 尺度の時代適合性を高めるためには、現在多用されている利用の形態や時間に関する主観的な問いではなく、日常生活への実害の有無等、より客観性の高い項目を加える等の検討が、今後必要ではないかとも考えられている。

調査結果(速報)の概要

◆ 高校生でネット依存傾向「高」の生徒は4.6%。【6頁】

- 依存傾向「高」の割合は、男子3.9%、女子5.2%と女子の方が高い。
- 学年別では、1年生5.2%、2年生4.8%、3年生3.7%と低学年の方が高い。

◆ スマートフォン／フィーチャーフォンでのネット利用時間は、依存傾向「高」の生徒は一日262.8分。依存傾向の高低を問わずソーシャルメディアが長く、とりわけ女子は男子の2倍。【7-9頁】

- 依存傾向「高」の生徒による機器毎のネット利用時間は、スマートフォン／フィーチャーフォンは262.8分、パソコンは89.5分、タブレット端末が23.1分。
- スマートフォン／フィーチャーフォンのサービス毎の利用時間は、「ソーシャルメディアを見る」「ソーシャルメディアに書き込む」がそれぞれ全体では57.0分、31.9分。これを男女別に見ると、男子は37.2分、21.1分であるのに対し、女子はそれぞれ74.2分、41.3分と2倍。他方、「オンラインゲームをする」の平均利用時間は、男子(27.2分)が女子(13.8分)の2倍。
- 依存傾向「高」の生徒の利用時間は、「ソーシャルメディアを見る」が113.1分、「ソーシャルメディアに書き込む」が78.6分等と全体の2倍。

◆ 依存傾向「高」の生徒は、「ソーシャルメディア上だけの友だち」が93.1人。【18頁】

- ソーシャルメディアでよくやりとりする人数は、全体では「今通っている学校の友だち」が15.0人、「以前通っていた学校の友だち」が10.2人、「ソーシャルメディア上だけの友だち」が19.4人。
- 依存傾向「高」の生徒は、「ソーシャルメディア上だけの友だち」が93.1人と非常に多い。「ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際にあったこともある友達」も5.3人(全体平均は1.8人)。

◆ 依存傾向「高」の生徒は、日常生活に影響が及んでいる割合が平均の4倍。【13, 19頁】

- 「ひまさえあれば、スマートフォンでネットを利用している」は全体では42.6%、依存度「高」では76.7%。
- 依存傾向「高」の生徒のうち、「ネットのしすぎが原因で、引きこもり気味になっている」は49.0%、「ネットのしすぎが原因で、健康状態が悪化している」は39.8%、「ネットのしすぎが原因で学校に遅刻したり、欠席しがちになっている」は35.8%で、いずれも全体平均の4倍(値は「いつもある」「よくある」「ときどきある」の合計)。
- 依存傾向「高」の生徒ほど、ソーシャルメディアの利用に際し、悩んだり負担に感じていることが多い。

1-1 高校生のネット依存傾向

ネット依存傾向の診断尺度

- ◆ 先行研究が多いヤング博士による20項目のインターネット依存尺度(1998)を参考に、ソーシャルメディアとその利用に即した文言を追加し、高校生向けに記述等を調整したものを試行的に活用し、依存傾向を3段階に分類※。
- ◆ 「ネット依存傾向」が高いことのみで、治療が必要となる「ネット依存」であるわけではないことに留意が必要。

1. 気がつくと、思っていたより長い時間ネットをしていることがある
2. ネットを長く利用していたために、家庭での役割や家事(炊事、掃除、洗濯など)をおろそかにすることがある
3. 家族や友だちと過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある
4. ネットで新しく知り合いを作ることがある
5. 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある
6. ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている
7. ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出る
8. 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア(LINE、Facebookなど)やメールをチェックすることがある
9. 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある
10. 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある
11. 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある
12. ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある
13. ネットをしている最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある
14. 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている
15. ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある
16. ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある
17. ネットをする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある
18. ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある
19. 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある
20. ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂鬱な気持ちになったりする

※ Young, K.S. (1998) Caught in The Net: How to Recognize the Sign of Internet Addiction and a Winning Strategy for Recovery. Wiley.
を参考に東京大学大学院情報学環橋元研究室と調整

1-2 高校生のネット依存傾向

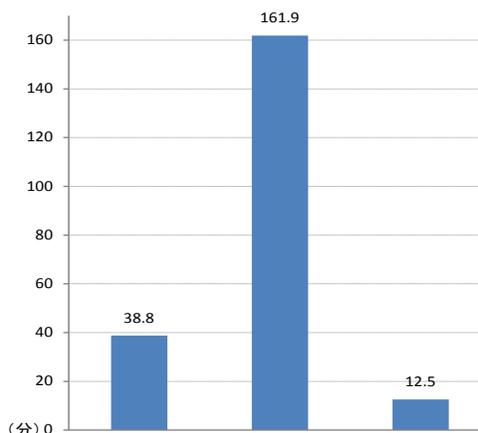
		ネット依存傾向高	ネット依存傾向中	ネット依存傾向低	N
全体		4.6	55.2	40.2	14071
性別	男	3.9	51.5	44.6	6575
	女	5.2	58.5	36.3	7252
学年	1年生	5.2	58.2	36.7	4998
	2年生	4.8	56.5	38.7	4807
	3年生	3.7	50.2	46.1	4266
スマートフォン 利用	利用	4.7	57.4	37.9	11942
	非利用	3.8	43.2	53.0	2112

➤ 依存傾向「高」の生徒は全体の4.6%。依存傾向「中」の生徒は55.2%。

※登校している生徒のみからの抽出回答であるが、高校生全体で大きな変化があるとは考えにくい

- 男子(3.9%)より女子が多い(5.2%)。
- 低学年(1年生5.2%)の方が高学年(3年生3.7%)より多い。
- スマートフォン利用者が非利用者(3.8%)よりも多い(4.7%)。依存傾向「中」の生徒まで合わせると、スマホ利用と非利用では10ポイント以上差が開く。

2-1 高校生のネット利用 ー機器毎の利用時間



		パソコン	スマートフォン /フィーチャーフォン	タブレット端末
全体		38.8	161.9	12.5
性別	男	46.7	132.8	13.5
	女	31.7	186.9	11.2
学年	1年生	34.7	177.0	13.9
	2年生	39.3	157.5	11.7
	3年生	43.0	149.1	11.9
スマートフォン利用	利用	36.0	182.5	10.9
	非利用	53.8	44.0	20.8
ネット依存傾向	高	89.5	262.8	23.1
	中	44.5	181.7	13.3
	低	25.2	121.9	9.3

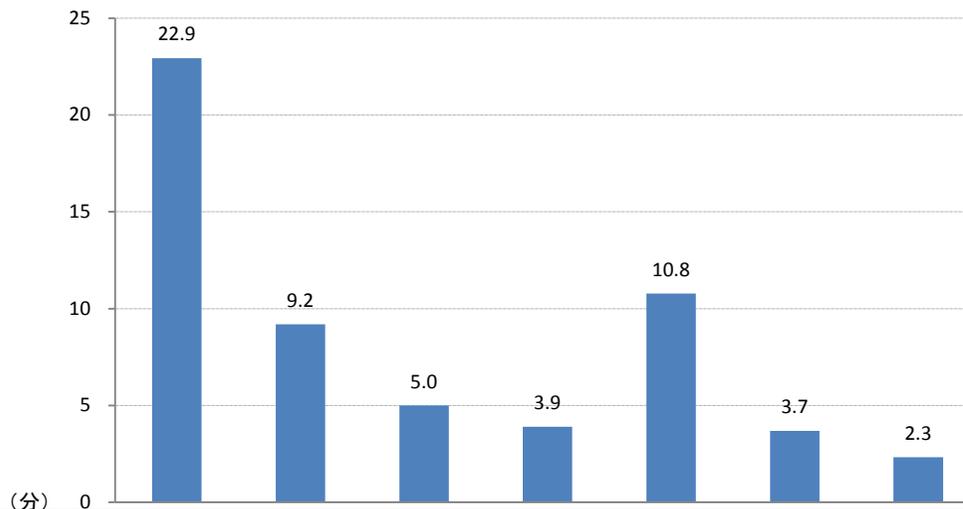
※ 分析母数は有効回答者全体

※ DK・NAを除いて計算しているためN値は異なる

- 機器毎のネット利用時間を見ると、スマートフォン・フィーチャーフォン利用時間が161.9分と圧倒的に長い。
- パソコンについては男子が、スマートフォン・フィーチャーフォンについては女子が長い。特にスマートフォン・フィーチャーフォンの利用については、女子が186.9分に対し、男子が132.8分と女子が顕著に長い。
- パソコンについては学年が上がるほど利用時間が長くなり、スマートフォン・フィーチャーフォンについては、学年が下がるほど利用時間が長くなる。
- いずれの機器もネット依存傾向が高いほど利用時間が長い傾向。特にスマートフォンでこの傾向が顕著。

2-2 高校生のネット利用 -サービス毎の利用時間 ①パソコン・タブレット

パソコンやタブレット端末での平均利用時間



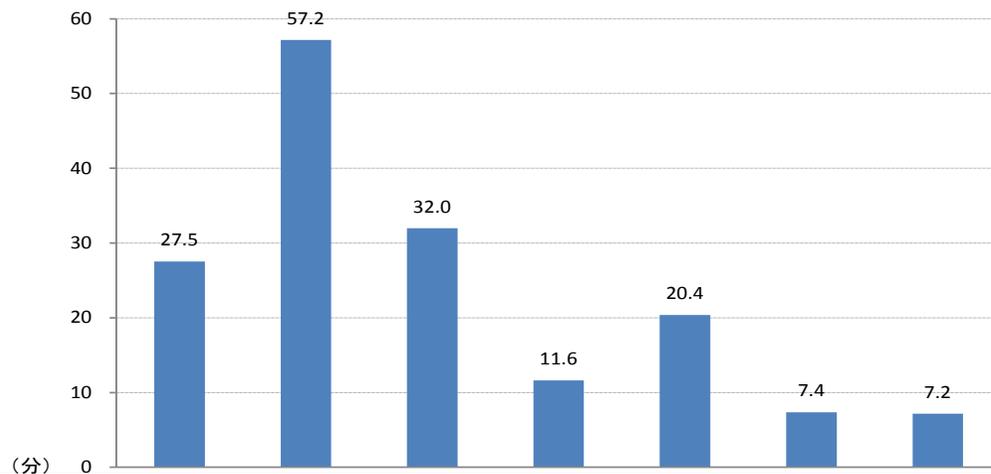
		動画投稿サイトを見る	ソーシャルメディアを見る	ソーシャルメディアに書き込む	ソーシャルメディアで無料通話をする	オンラインゲームをする	ニュースサイトを見る	ブログを見る
全体		22.9	9.2	5.0	3.9	10.8	3.7	2.3
性別	男	25.9	9.8	5.4	5.3	17.2	5.5	2.3
	女	20.3	8.5	4.5	2.6	4.7	2.0	2.3
学生別	1年生	22.1	9.0	5.1	3.2	10.1	3.2	2.1
	2年生	22.5	9.4	5.3	3.9	10.7	3.7	2.6
	3年生	24.4	9.1	4.6	4.8	11.7	4.3	2.2
スマートフォン利用	利用	20.6	8.0	4.3	3.9	9.8	3.4	2.1
	非利用	35.3	15.5	9.0	4.2	16.1	5.6	3.4
ネット依存傾向	高	49.4	34.1	20.2	18.8	32.4	9.5	6.5
	中	26.2	10.5	6.0	4.6	12.7	3.9	2.6
	低	15.2	4.5	1.9	1.6	5.0	2.8	1.4

※ 分析母数は有効回答者全体
 ※ DK・NAを除いて計算しているためN値は異なる

- パソコン・タブレット端末でのサービス毎のネット利用時間を見ると、「動画投稿サイトを見る」が22.9分で最も長い。
- 性別で見ると、「ブログを見る」以外は男子の利用時間が長いですが、とりわけ「オンラインゲームをする」について、男子(17.2分)、女子(4.7分)とその傾向が顕著。
- いずれのサービスもネット依存傾向が高いほど利用時間が長い傾向。

2-2 高校生のネット利用 サービス毎の利用時間 ②スマートフォン・フィーチャーフォン

スマートフォン・フィーチャーフォンでの平均利用時間

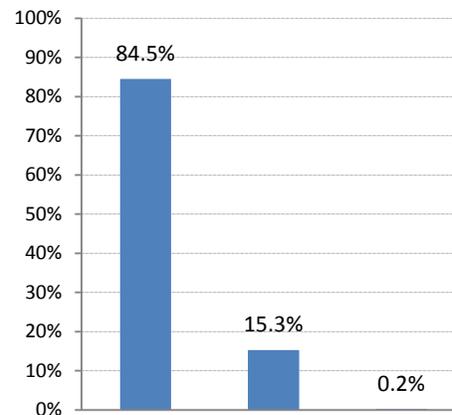


		動画投稿サイトを見る	ソーシャルメディアを見る	ソーシャルメディアに書き込む	ソーシャルメディアで無料通話をする	オンラインゲームをする	ニュースサイトを見る	ブログを見る
全体		27.5	57.0	31.9	11.6	20.3	7.3	7.1
性別	男	25.6	37.2	21.1	8.2	27.2	9.2	4.2
	女	29.0	74.2	41.3	14.4	13.8	5.6	9.7
学生別	1年生	30.0	67.3	42.0	12.7	23.6	6.3	7.0
	2年生	27.8	53.9	29.6	10.9	18.9	7.6	7.0
	3年生	23.9	48.1	22.2	11.0	17.9	8.4	7.5
スマートフォン利用	利用	31.2	65.3	36.4	13.4	23.0	8.2	7.9
	非利用	5.4	9.2	5.7	1.3	4.8	2.3	2.9
ネット依存傾向	高	47.7	113.1	78.6	22.4	37.7	10.2	13.2
	中	31.4	67.6	38.2	13.0	23.4	7.8	8.3
	低	19.4	36.4	18.1	8.0	14.3	6.3	4.3

※ 分析母数は有効回答者全体
 ※ DK・NAを除いて計算しているためN値は異なる

- スマートフォン・フィーチャーフォンのサービス毎のネット利用時間を見ると、「ソーシャルメディアを見る」が最も長い。
- 「ソーシャルメディアを見る」「ソーシャルメディアに書き込む」は、女子がそれぞれ74.2分、41.3分であるのに対し、男子が37.2分、21.1分と、女子が男子の2倍近く長い。逆に、「オンラインゲームをする」は、男子(27.2分)が女子(13.8分)より約2倍長い。
- いずれのサービスもネット依存傾向が高いほど利用時間が長い。が、「ソーシャルメディアを見る」(113.1分)「ソーシャルメディアに書き込む」(78.6分)について、特にその傾向が顕著。

3-1 スマートフォンの利用状況 -スマートフォン利用の有無



		利用している	利用していない	無回答	合計	N
全体		84.5%	15.3%	0.2%	100.0%	15191
性別	男	81.5%	18.3%	0.2%	100.0%	7069
	女	87.2%	12.7%	0.1%	100.0%	7678
学年	1年生	87.4%	12.4%	0.3%	100.0%	5413
	2年生	84.9%	15.0%	0.1%	100.0%	5164
	3年生	80.8%	19.0%	0.2%	100.0%	4614
ネット依存傾向	高	87.3%	12.6%	0.2%	100.0%	645
	中	88.2%	11.7%	0.1%	100.0%	7768
	低	80.0%	19.8%	0.2%	100.0%	5658

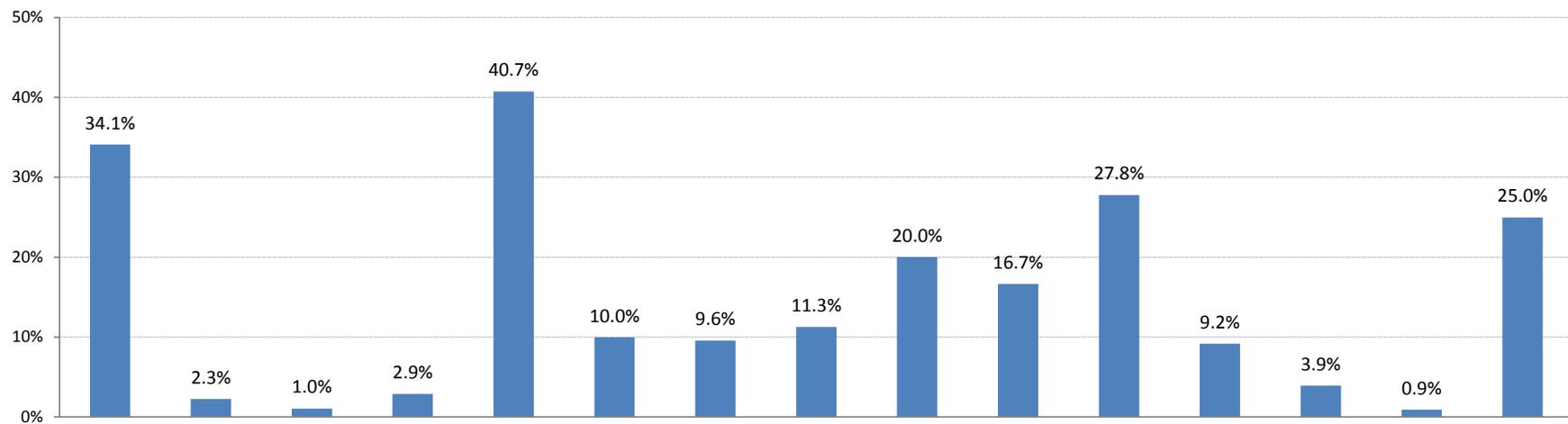
※ 分析母数は有効回答者全体

➤ 全体の84.5%がスマートフォンを利用している。

※「スマートフォンを利用しているか」という設問であるため、ネット非利用者も含まれ得る。

➤ 女子(87.2%)が男子(81.5%)より利用率が高く、また学年が下がるほど利用している割合が高い。

3-2 スマートフォンの利用状況 -スマートフォン利用開始により減った時間【複数回答】

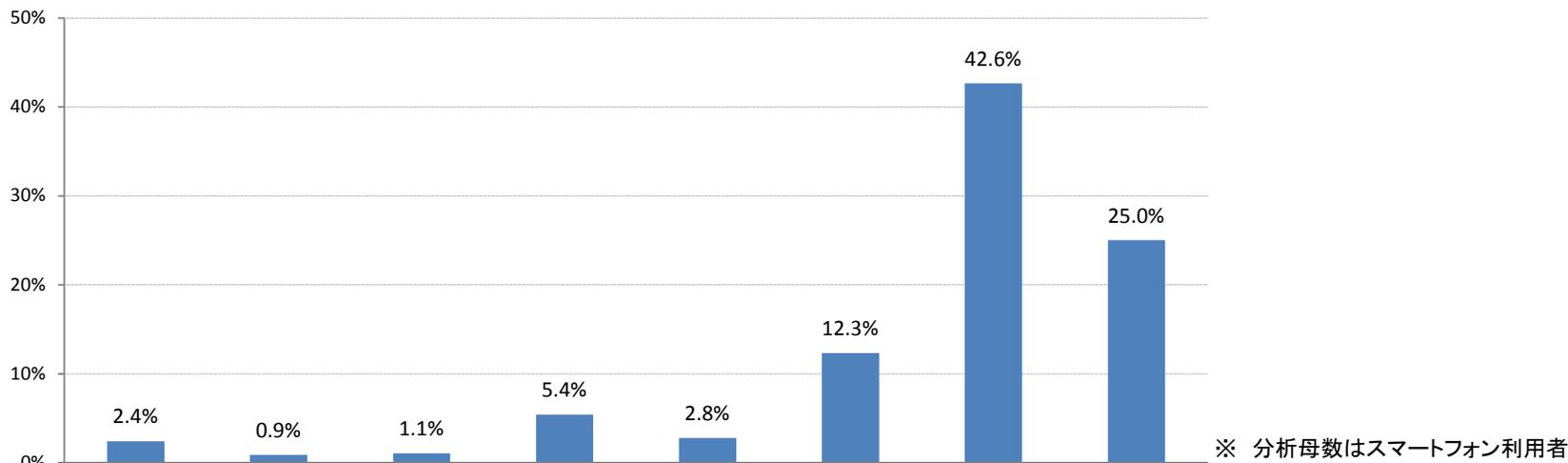


		勉強の時間	部活の時間	アルバイトの時間	食事の時間	睡眠時間	家事(炊事、掃除、洗濯など)の時間	外へ遊びに出かける時間	趣味に使う時間	本を読む時間	マンガや雑誌を読む時間	テレビを見る時間	家族と話す時間	友だちと会う時間	その他	あてはまるものはない	N
全体		34.1%	2.3%	1.0%	2.9%	40.7%	10.0%	9.6%	11.3%	20.0%	16.6%	27.8%	9.2%	3.9%	0.9%	25.0%	12841
性別	男	29.2%	2.8%	1.5%	2.9%	36.1%	6.8%	10.5%	10.9%	17.6%	17.8%	27.0%	8.1%	4.1%	1.2%	27.5%	5759
	女	38.3%	1.8%	0.6%	2.9%	44.8%	12.8%	8.9%	11.7%	22.5%	15.9%	28.6%	10.1%	3.8%	0.7%	23.2%	6698
学年	1年生	41.6%	2.7%	1.0%	3.4%	43.9%	13.0%	11.1%	14.4%	24.8%	19.6%	30.9%	11.2%	4.7%	1.1%	19.4%	4729
	2年生	33.7%	2.3%	1.0%	2.8%	41.8%	9.3%	10.0%	11.0%	20.2%	16.6%	29.4%	9.3%	4.0%	0.9%	23.5%	4384
	3年生	25.1%	1.6%	1.2%	2.3%	35.5%	6.8%	7.1%	7.6%	13.7%	13.0%	21.9%	6.4%	2.8%	0.7%	33.7%	3728
ネット依存傾向	高	67.7%	10.8%	4.3%	16.5%	74.6%	34.5%	36.1%	21.3%	36.2%	30.9%	42.1%	32.0%	20.8%	2.1%	6.2%	563
	中	42.8%	2.2%	0.9%	2.8%	51.7%	12.3%	11.0%	13.1%	23.6%	19.3%	31.9%	11.2%	4.1%	0.8%	15.5%	6851
	低	17.3%	1.0%	0.6%	1.1%	20.6%	3.3%	4.2%	7.4%	13.2%	11.6%	20.8%	3.4%	1.6%	0.8%	43.0%	4528

※ 分析母数はスマートフォン利用者

- 全体では「睡眠時間」(40.7%)、「勉強の時間」(34.1%)、「テレビを見る時間」(27.8%)などの該当率が高い。
- 「あてはまるものはない」を除くすべての項目で、依存傾向が高いほど該当率が高い傾向。

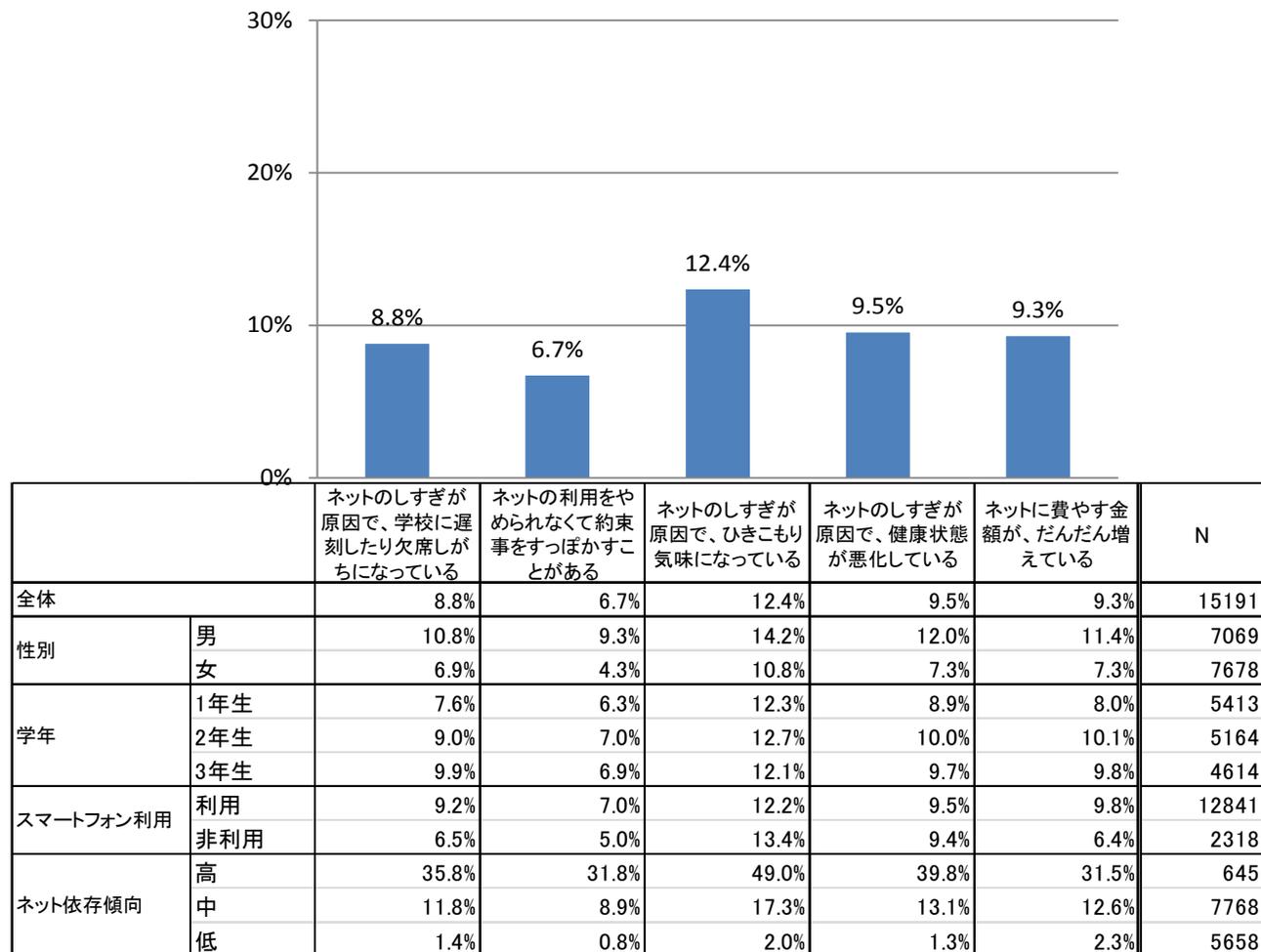
4-1 ネット利用を原因とする生活等への影響 -①スマートフォンによるネット利用



		ネット利用が原因で、何度か学校をずる休みしたことがある	ネット利用が原因で、長期にわたる不登校や休学を経験したことがある	ネット利用が原因で、健康を損ね病院にかかったことがある	ネット利用が原因で、試験に失敗した	ネット利用が原因で、友だちを失った	起きている間中、ずっとスマートフォンでネットを利用している	ひまさえあれば、スマートフォンでネットを利用している	自分はネット依存だと思う	N
全体		2.4%	0.9%	1.1%	5.4%	2.8%	12.3%	42.6%	25.0%	12841
性別	男	2.6%	1.3%	1.3%	5.1%	2.9%	8.7%	34.7%	20.9%	5759
	女	2.2%	0.6%	0.8%	5.7%	2.7%	15.5%	50.0%	29.0%	6698
学年	1年生	2.3%	0.8%	1.1%	6.8%	2.6%	13.8%	45.6%	26.5%	4729
	2年生	2.3%	1.1%	1.3%	6.2%	3.1%	12.2%	43.0%	25.9%	4384
	3年生	2.8%	0.8%	0.7%	2.8%	2.6%	10.6%	38.4%	22.2%	3728
ネット依存傾向	高	13.9%	3.9%	5.5%	19.0%	10.8%	48.5%	76.7%	71.0%	563
	中	2.5%	1.0%	1.2%	6.9%	3.4%	15.1%	53.5%	33.7%	6851
	低	0.8%	0.3%	0.3%	1.3%	1.0%	3.8%	22.9%	7.0%	4528

- スマートフォンによるネット利用が日常生活に及ぼす影響等については、全体では「ひまさえあれば、スマートフォンでネットを利用している」が42.6%、さらに「起きている間中、ずっとスマートフォンを利用している」が12.3%。
- また、「自分はネット依存だと思う」と、ネットを使いすぎている実感を持っている生徒が25.0%存在。
- 上記3項目については、女子が男子より数ポイント以上高い。その他は男子がやや高い項目が多い。
- いずれの項目でも、依存傾向が高いほど該当率が高い傾向。

4-1 ネット利用を原因とする日常生活への影響 ② ネット利用全般

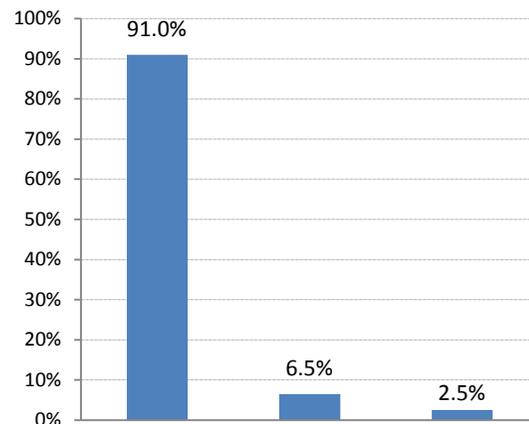


※ 分析母数は有効回答者全体

※ 各項目について五択で尋ね、「いつもある」「よくある」「ときどきある」の該当率を合算したものの。

- ネット利用全体による日常生活への悪影響については、いずれの項目においても男子の方が該当率が高い。
- いずれの項目でも、依存傾向が高いほど該当率が高い傾向。特に「ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている」(49.0%)、「ネットのしすぎが原因で、健康状態が悪化している」(39.8%)、「ネットのしすぎが原因で学校に遅刻したり、欠席しがちになっている」(35.8%)は、全体平均の4倍。

5-1 ソーシャルメディアの利用状況 -ソーシャルメディア利用の有無



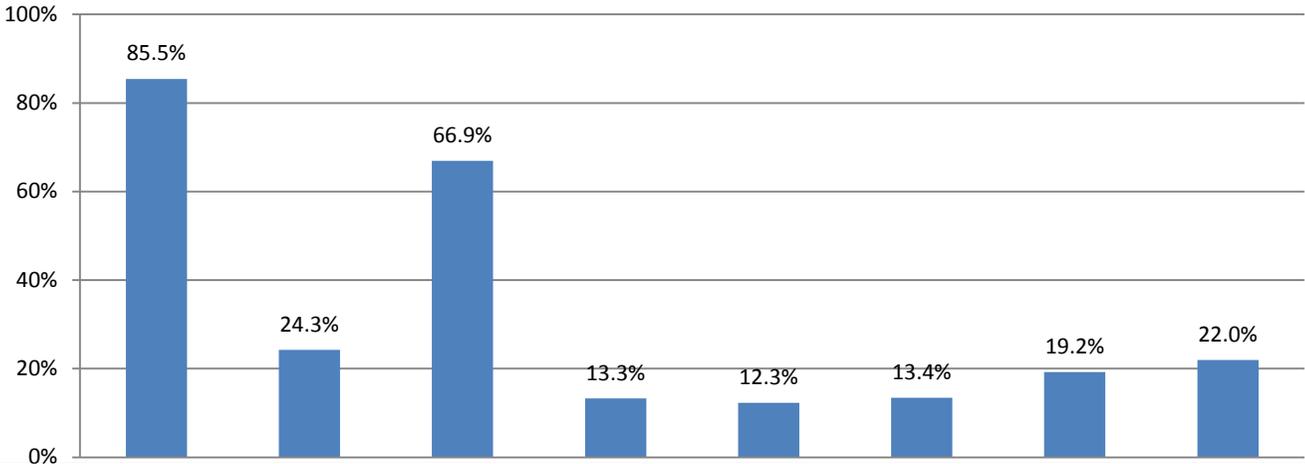
		利用している	利用していない	無回答	合計	N
全体		91.0%	6.5%	2.5%	100.0%	15191
性別	男	88.7%	7.9%	3.4%	100.0%	7069
	女	93.4%	5.2%	1.4%	100.0%	7678
学年	1年生	92.7%	5.2%	2.1%	100.0%	5413
	2年生	92.0%	6.0%	2.0%	100.0%	5164
	3年生	88.0%	8.5%	3.6%	100.0%	4614
スマートフォン利用	利用	97.1%	1.9%	1.0%	100.0%	12841
	非利用	57.6%	32.2%	10.1%	100.0%	2318
ネット依存傾向	高	96.3%	1.7%	2.0%	100.0%	645
	中	95.1%	3.7%	1.2%	100.0%	7768
	低	86.2%	10.6%	3.3%	100.0%	5658

※ 分析母数は有効回答者全体

- ソーシャルメディアを利用しているのは全体の91.0%。
- 女子(93.4%)の方が男子(88.7%)より利用率が高い。また、学年が下がるほど利用率が上がる傾向。
- スマートフォン利用者のソーシャルメディア利用率が97.1%であるのに対し、非利用者では57.6%と大きな差が見られる。
- 依存傾向が高いほど利用率が高い傾向。

5-2 ソーシャルメディアの利用状況 -利用するソーシャルメディア ①見る/書き込みをする

利用している割合(「見る」「書き込みをする」の合計)



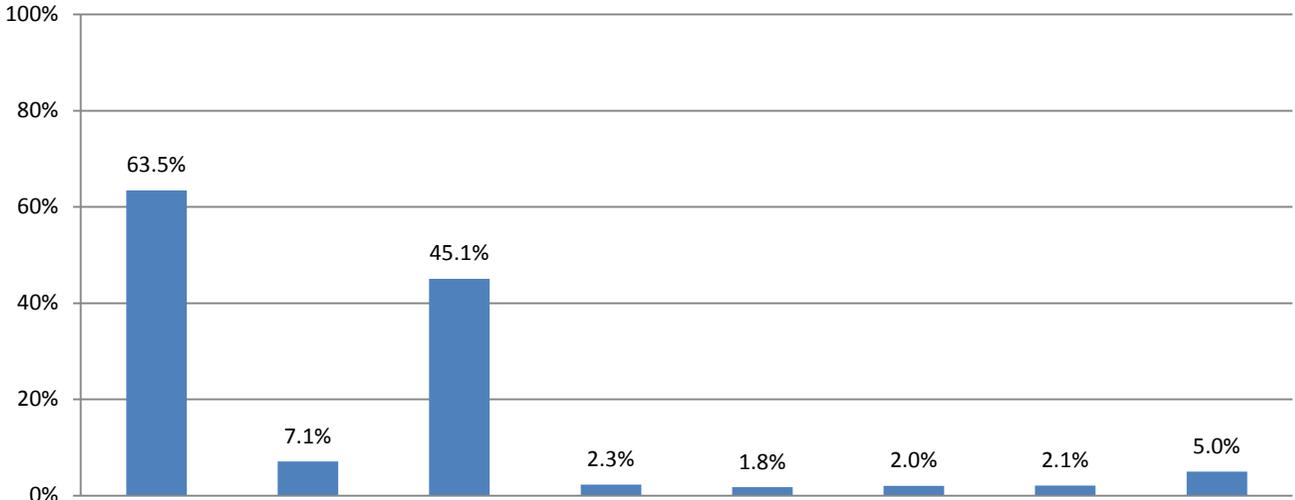
※ 分析母数は有効回答者全体

		LINE (ライン)	Facebook (フェイスブック)	Twitter (ツイッター)	mixi (ミクシィ)	GREE (グリー)	Mobage (モバゲー)	Google+ (グーグルプラス)	その他	N
全体		85.5%	24.3%	66.9%	13.3%	12.3%	13.4%	19.2%	22.0%	15191
性別	男	82.3%	22.7%	59.5%	13.9%	14.9%	16.7%	19.6%	19.7%	7069
	女	88.7%	25.5%	73.7%	12.6%	9.7%	10.4%	18.7%	24.0%	7678
学年	1年生	88.9%	20.5%	69.2%	11.1%	11.1%	12.1%	20.6%	22.7%	5413
	2年生	86.8%	24.5%	67.5%	13.9%	12.7%	14.0%	19.4%	22.1%	5164
	3年生	79.9%	28.5%	63.6%	15.2%	13.2%	14.5%	17.5%	21.1%	4614
スマートフォン利用	利用	93.9%	26.3%	73.6%	14.0%	12.8%	13.9%	21.0%	23.4%	12841
	非利用	38.9%	13.0%	30.5%	9.3%	9.3%	10.8%	9.1%	13.9%	2318
ネット依存傾向	高	88.4%	27.3%	79.8%	18.0%	18.1%	20.5%	26.4%	35.0%	645
	中	89.7%	25.9%	74.0%	13.8%	12.9%	14.0%	21.2%	24.1%	7768
	低	81.0%	21.4%	56.6%	11.7%	10.6%	11.6%	15.4%	17.0%	5658

- LINEの利用率が全体で85.5%で最も高く、Twitter(66.9%)やFacebook(24.3%)がこれに続く。
- LINE、Facebook、Twitterは女子が男子より利用。GREE、Mobageといったゲーム系のサービスは男子が女子より利用。
- いずれのメディアの利用率も、スマートフォン利用者がスマートフォン非利用者より高いが、とりわけLINE(93.9%)、Twitter(73.6%)においてその傾向が顕著。
- LINEは依存傾向に関わりなく利用率が高いが、Twitterは依存傾向「中」及び「高」の生徒の利用率が、「低」の生徒に比べて20ポイント前後高い。その他は、全体に依存傾向が高いほど利用率が高い傾向。

5-2 ソーシャルメディアの利用状況 -利用するソーシャルメディア ②書き込みをする

利用している割合（「書き込みをする」人のみ）

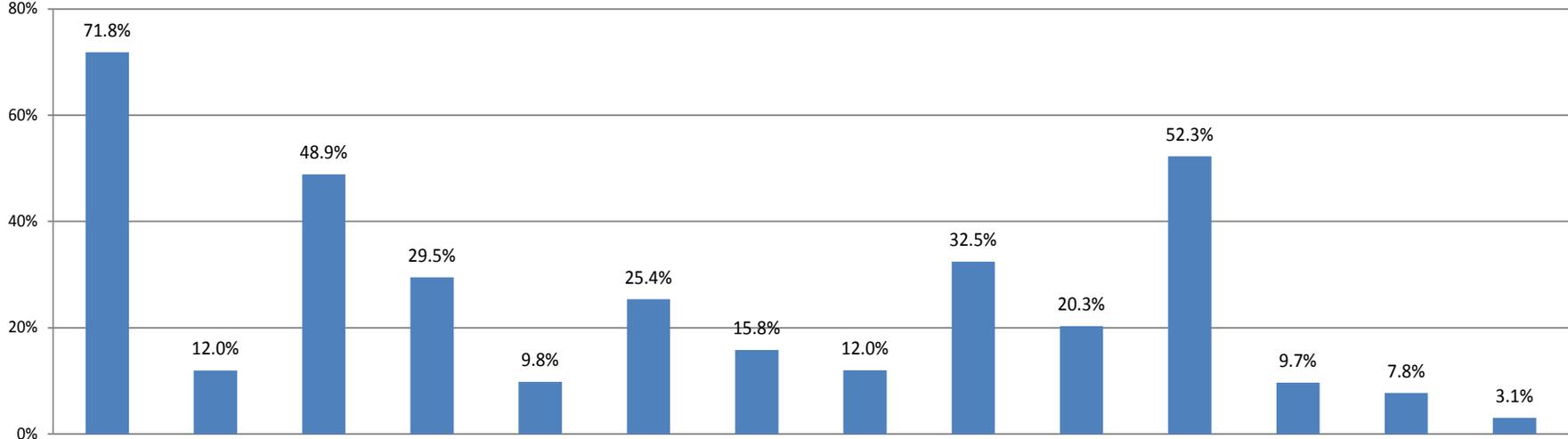


		LINE (ライン)	Facebook (フェイスブック)	Twitter (ツイッター)	mixi (ミクシィ)	GREE (グリー)	Mobage (モバゲー)	Google+ (グーグルプラス)	その他	N
全体		63.5%	7.1%	45.1%	2.3%	1.8%	2.0%	2.1%	5.0%	15191
性別	男	57.2%	5.5%	35.4%	2.4%	2.2%	2.7%	2.5%	3.9%	7069
	女	69.6%	8.6%	54.1%	2.2%	1.5%	1.5%	1.7%	5.9%	7678
学年	1年生	68.3%	5.1%	49.8%	1.6%	1.4%	1.6%	2.1%	5.4%	5413
	2年生	65.8%	7.8%	45.6%	2.4%	1.7%	2.1%	2.1%	5.0%	5164
	3年生	55.1%	8.5%	38.9%	3.1%	2.3%	2.4%	2.0%	4.5%	4614
スマートフォン利用	利用	70.1%	7.6%	49.9%	2.4%	1.8%	2.0%	2.3%	5.2%	12841
	非利用	27.4%	4.0%	18.8%	1.7%	1.5%	2.0%	1.0%	4.0%	2318
ネット依存傾向	高	68.5%	8.7%	59.7%	4.3%	5.0%	6.1%	5.4%	13.5%	645
	中	69.1%	7.5%	52.8%	2.4%	1.8%	2.0%	2.2%	5.8%	7768
	低	57.2%	6.1%	34.0%	1.9%	1.3%	1.4%	1.3%	2.9%	5658

※ 分析母数は有効回答者全体

- 全体ではLINE(63.5%)、Twitter(45.1%)の順に書き込み利用率が高く、順位は「見る」も含めた場合と同じ。
- 依存傾向「中」及び「高」の生徒ほど、書き込み利用率が高い傾向。

5-3 ソーシャルメディアの利用目的【複数回答】

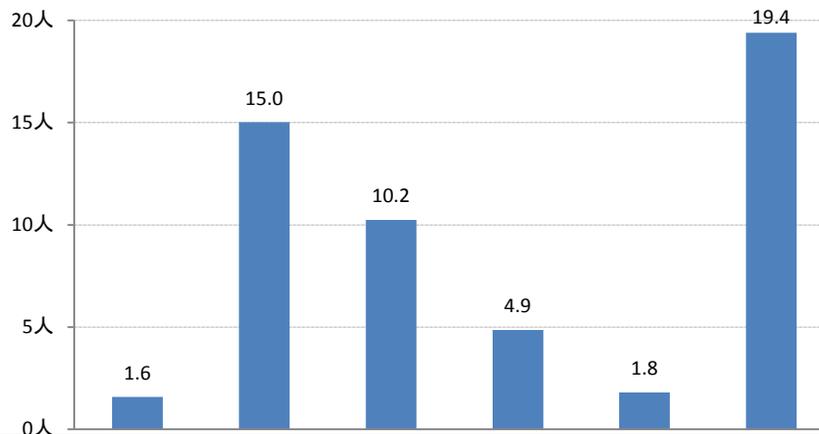


		友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため	新たな友だちをつくるため	学校・部活動などの事務的な連絡のため	周囲の人も使っているため	自分の近況や気持ちを知らせてもらうため	友だちの近況を知るため	有名人の近況を知るため	世の中の出來事に関する他の人の意見を知る	情報収集のため	写真・動画などを気軽に投稿・シェアできるため	ひまつぶしのため	ストレス解消のため	現実から逃れるため	その他	N
全体		71.8%	12.0%	48.9%	29.5%	9.8%	25.4%	15.8%	12.0%	32.5%	20.3%	52.3%	9.7%	7.8%	3.1%	13827
性別	男	67.0%	9.3%	43.8%	26.1%	7.7%	20.5%	7.7%	11.7%	29.4%	13.6%	48.7%	7.9%	5.0%	3.3%	6273
	女	76.3%	14.3%	53.6%	32.6%	11.7%	29.6%	23.1%	12.2%	35.3%	26.1%	55.6%	11.4%	10.2%	2.9%	7169
学年	1年生	75.4%	13.3%	57.6%	32.2%	11.0%	26.0%	16.2%	11.2%	31.9%	22.5%	54.1%	10.5%	8.5%	3.1%	5018
	2年生	71.0%	10.4%	48.1%	30.2%	9.6%	24.8%	15.3%	12.1%	33.1%	20.0%	53.1%	9.9%	7.9%	2.7%	4749
	3年生	68.4%	12.1%	39.0%	25.3%	8.6%	25.3%	15.9%	12.9%	32.5%	18.0%	49.1%	8.4%	6.7%	3.6%	4060
スマートフォン	利用	73.6%	12.4%	50.4%	30.5%	10.3%	26.2%	16.5%	12.2%	32.7%	20.9%	53.6%	9.6%	7.6%	2.8%	12469
	非利用	55.5%	7.9%	34.7%	20.0%	5.5%	18.0%	9.4%	10.7%	30.4%	15.5%	40.8%	10.6%	9.6%	5.2%	1336
ネット依存傾向	高	67.5%	32.4%	41.2%	38.2%	26.9%	36.9%	26.2%	22.4%	45.6%	36.4%	63.4%	35.6%	37.2%	3.7%	621
	中	74.1%	14.9%	49.7%	33.0%	12.0%	29.9%	19.1%	14.0%	37.0%	24.4%	57.7%	11.8%	9.6%	3.0%	7384
	低	71.1%	5.2%	51.0%	24.5%	4.5%	17.9%	10.1%	7.6%	25.4%	12.6%	44.1%	3.2%	1.4%	2.9%	4876

※ 分析母数はソーシャルメディア利用者

- 「友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため」が最も高く、全体で71.8%。「ひまつぶしのため」(52.3%)、「学校・部活動などの事務的な連絡のため」(48.9%)と続く。
- 依存傾向「高」の生徒は、「学校・部活動などの事務的な連絡のため」を除き、全体的に高め。特に、「ストレス解消のため」「現実から逃れるため」「新たな友だちをつくるため」については、依存傾向「中」や「低」の生徒に比べて、顕著に高い。

5-4 ソーシャルメディアの利用状況 -ソーシャルメディアでよくやりとりする人数



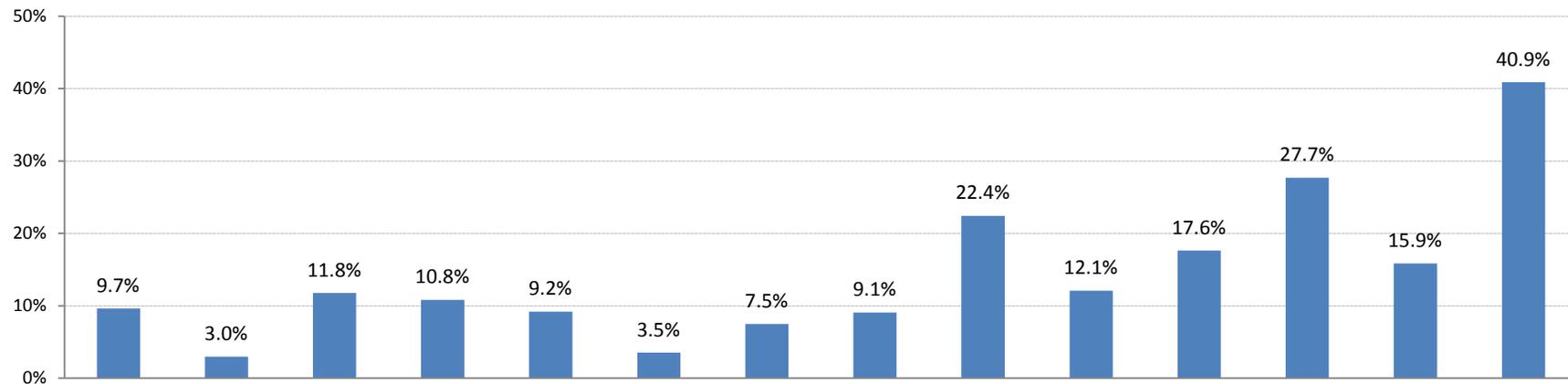
		家族	今通っている学校の友だち	以前通っていた学校の友だち(今は別々の学校)	学校外の活動(塾、クラブ活動、趣味の活動等)を通じて知り合った友だち	ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際に会ったこともある友だち	ソーシャルメディア上だけの友だち
全体		1.6	15.0	10.2	4.9	1.8	19.4
性別	男	1.4	16.1	11.7	5.6	1.9	24.0
	女	1.7	14.0	8.9	4.2	1.7	15.7
学年	1年生	1.6	16.1	12.8	5.2	1.7	23.0
	2年生	1.5	14.9	9.1	4.5	1.6	19.0
	3年生	1.6	13.7	8.5	4.9	2.1	15.2
スマートフォン利用	利用	1.7	15.3	10.5	5.0	1.9	18.9
	非利用	0.7	12.3	7.2	3.3	1.0	24.4
ネット依存傾向	高	1.6	14.1	10.4	5.7	5.3	93.1
	中	1.6	15.0	10.1	4.8	2.0	20.9
	低	1.6	14.7	10.2	4.5	1.1	8.0

※ 分析母数はソーシャルメディア利用者

※ DK・NAを除いて計算しているためN値は異なる

- 「ソーシャルメディア上だけの友だち」が全体で19.4人と最も多く、「今通っている学校の友だち」(15.0人)、「以前通っていた学校の友だち」(10.2人)と続く。
- 依存傾向が高い生徒は、「ソーシャルメディア上だけの友だち」が93.1人と非常に多い。「ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際に会ったこともある友だち」も5.3人(全体では1.8人)。「家族」「今通っている学校の友だち」「以前通っていた学校の友だち」では依存傾向による顕著な差は見られない。

5-5 ソーシャルメディアの利用状況 -利用する際、悩んだり負担に感じること【複数回答】



		ソーシャルメディア内の人間関係	ひんぱんにメッセージを投稿しなければいけないような気がする	友だちのメッセージをチェックすること	自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む	他人の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む	悪意のあるコメントや荒らしが来る	見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる	知りたくもないのに人の行動がわかってしまうこと	メッセージを読んだことがわかる機能(「既読チェック」など)があること	メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと	友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと	自分が書いてしまった内容について、後から「あれで良かったか」などと悩む	自分の書いたメッセージに反応がないこと	あてはまるものはない	N
全体		9.6%	3.0%	11.8%	10.8%	9.2%	3.5%	7.5%	9.1%	22.4%	12.1%	17.6%	27.7%	15.9%	40.9%	13827
性別	男	7.8%	2.9%	9.8%	7.3%	6.6%	4.0%	6.1%	6.1%	15.0%	8.7%	11.6%	21.7%	12.9%	49.5%	6273
	女	11.2%	3.0%	13.5%	13.9%	11.5%	3.2%	8.7%	11.7%	29.0%	15.1%	22.8%	33.0%	18.4%	33.8%	7169
学年	1年生	11.2%	3.1%	13.8%	11.5%	10.4%	4.1%	8.7%	8.3%	25.4%	13.9%	20.1%	30.3%	17.9%	37.8%	5018
	2年生	9.1%	3.0%	12.0%	10.1%	8.6%	3.5%	7.4%	9.4%	22.3%	12.0%	18.0%	27.6%	16.4%	41.1%	4749
	3年生	8.3%	2.8%	9.0%	10.8%	8.4%	2.9%	6.1%	9.7%	18.8%	10.0%	14.0%	24.6%	12.8%	44.5%	4060
スマートフォン利用	利用	9.8%	3.0%	12.0%	11.1%	9.5%	3.5%	7.8%	9.5%	23.2%	12.5%	18.2%	28.2%	16.2%	40.9%	12469
	非利用	8.2%	3.0%	10.1%	7.9%	6.4%	3.6%	5.2%	5.1%	16.0%	8.6%	12.3%	23.2%	13.0%	41.2%	1336
ネット依存傾向	高	30.3%	10.3%	26.6%	23.2%	20.1%	13.0%	21.7%	17.4%	36.2%	25.8%	34.8%	51.9%	36.4%	20.1%	621
	中	12.1%	3.4%	14.0%	13.6%	11.7%	4.1%	9.2%	10.6%	26.7%	14.3%	21.3%	33.6%	19.1%	33.9%	7384
	低	3.5%	1.1%	6.7%	5.4%	4.3%	1.4%	3.5%	5.8%	15.0%	7.4%	10.1%	16.6%	8.7%	54.6%	4876

※ 分析母数はソーシャルメディア利用者

- 全体では「あてはまるものはない」が40.9%で最も多いが、約6割の生徒が負担に感じるという結果。
- 負担感の中で多いのは「自分が書いてしまった内容について、後から『あれで良かったか』などと悩む」(27.7%)、「メッセージを読んだことが分かる機能があること」(22.4%)、「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと」(17.6%)の順が多い。
- 依存傾向が高いほど、負担感の項目について該当する割合が高く、「あてはまるものがない」が低い傾向。